

## 第11回 地域医療と健康生活を守るためのシンポジウム開催報告

「この海部地区の地域医療を守り育てていくために、何をすべきか、何ができるかを、一緒に考えてみませんか。」というテーマで、多くの方にご参加いただき、「地域医療と健康生活を守るためのシンポジウムーみんなで取り組む地域医療づくりー」を開催しました。

【テーマ】 「大規模災害対策とまちづくり ～災害医療を考える～」

【日時】 平成27年9月20日(日) 午後1時30分 ～ 3時30分

【場所】 飛島村中央公民館 ホール

【参加者】 100人

【進行】 海南病院 副院長 関屋 勇人

【主催】 海部地域の医療と健康を推進する協議会

【後援】 海部医師会、津島市医師会、海部歯科医師会、津島市歯科医師会  
津島海部薬剤師会

【協力】 海部地域医療サポーターの会

【挨拶】 あま市民病院 院長 赤毛 義実  
(海部地域の医療と健康を推進する協議会 副会長)  
飛島村 村長 久野 時男

【講演】 1 演題 「飛島村の災害対策について」  
講師 飛島村総務部総務課係長 大谷 和久 氏  
内容 飛島村の災害対策は、理論上最大想定モデルを使用し、津波高、津波浸水高、津波浸水深を想定した対策となっている。自助、共助、公助の連携が必要と述べられる。

2 演題 「災害に備えてー住民としての立場でー」

講師 あま市ボランティアグループ尼ちゃんの会  
会長 渡邊 みずえ 氏

内容 災害に備えて、連絡方法、食料品等の備蓄、防災訓練等中央内行事への参加、自分自身を守る防災グッズの必要性や防災ずきんの作り方、避難時の持ち物、自分では自分で守ること等の他に、日頃からの健康管理が大切と述べられる。

3 演題 「大規模災害時における災害拠点病院と地域との連携」

講師 JA 愛知厚生連海南病院救命救急センター長  
(海部地域災害医療コーディネーター) 谷内 仁 氏

内容 災害時、建物の崩壊、津波、河川の氾濫、液状化、火災、水道、電気、ガスの供給停止、通信機能の途絶など情報は混乱し情報の共有が不可能になり組織は機能しないため被害拡大へとつながることから、医療機関の指揮命令が困難になるばかりでなく、医療資源が不足し救える命も救えない状況が起きる。災害拠点病院である海南病院はどう動くのか。EMIS（入力統制）を用いて緊急情報、詳細情報を入力することで情報の共有化ができ、DMAT（専門的な訓練を受けた医療チーム、全国に100チーム、海南病院2チーム）が活動に入る。災害拠点病院として機能を十分発揮するために各機関との連携、正確な情報の伝達、共有が大切と述べられる。

【パネルディスカッション】

座 長 JA 愛知厚生連海南病院 院長 山本 直人 氏  
(海部地域の医療と健康を推進する協議会 会長)

パネリスト 大谷 和久 氏 (講師)  
渡邊 みずえ氏 (講師)  
谷内 仁 氏 (講師)  
早川 喜久 氏 (飛島村総務部次長兼総務課長)

- ・ 飛島村の避難所の数と構造について  
飛島村の避難所は9か所、ピロテ構造、免震構造（震度5で自動開錠）、

- 備蓄は3日分（低アレルギー食料、粉ミルクの準備有）
- ・ 防空頭巾作成についてどのような人が関わっているのか。  
JAたすけあい組織が中心で作成。頭巾は常に進化しており、自分自身で守ることが大切
  - ・ EMIS, DMATについてもう少し説明を  
津島保健所が中心となり、各地区医師会、薬剤師会等ネットワークの情報収集強化を行う訓練を取り入れている。
  - ・ 災害時情報ネットワーク作りに住民の立場からどのような情報が出てくるとわかりやすいか。

【挨拶】 海部地域医療サポーターの会 代表 横井 千恵子

【挨拶】 津島市民病院 院長 松崎 安孝  
(海部地域の医療と健康を推進する協議会 会長)



次回以降の開催に活かすため、アンケートを実施しました。その概要は次のとおりです。

【アンケート結果】

参加者 132名 アンケート回答率 48.4% 64名

問1. ご職業について

- |                      |     |            |     |         |     |
|----------------------|-----|------------|-----|---------|-----|
| 1. 病院医師              | 3%  | 2. 診療所医師   | 0%  | 3. 歯科医師 | 9%  |
| 4. 薬剤師               | 2%  | 5. 看護師     | 9%  |         |     |
| 6. 病院職員（医師・看護師除く医療職） | 0%  |            |     |         |     |
| 7. 病院職員（事務職）         | 11% | 8. 市町村議会議員 | 2%  | 9. 住民   | 22% |
| 10. 行政職員（市民病院職員除く）   | 11% | 11. その他    | 31% |         |     |

問2. ご年齢について

- |           |     |           |     |
|-----------|-----|-----------|-----|
| 1. 10～19歳 | 0%  | 2. 20～29歳 | 3%  |
| 3. 30～39歳 | 3%  | 4. 40～49歳 | 11% |
| 5. 50～59歳 | 30% | 6. 60～69歳 | 36% |
| 7. 70歳以上  | 17% |           |     |

問3. お住まいについて

- |        |    |         |    |        |     |
|--------|----|---------|----|--------|-----|
| 1. 津島市 | 6% | 2. 愛西市  | 5% | 3. 弥富市 | 48% |
| 4. あま市 | 8% | 5. 大治町  | 0% | 6. 蟹江町 | 6%  |
| 7. 飛島村 | 2% | 8. 名古屋市 | 6% | 9. その他 | 19% |

問4. シンポジウムに参加したきっかけについて

- |                  |     |            |     |
|------------------|-----|------------|-----|
| 1. 知人からの紹介       | 25% | 2. ホームページ  | 0%  |
| 3. 病院備え付けのリーフレット | 5%  |            |     |
| 4. 病院・行政の行事      | 30% | 5. 市町村の広報紙 | 13% |
| 6. その他           | 28% |            |     |

問5. 講演内容について

- |             |     |                |     |
|-------------|-----|----------------|-----|
| 1. よく理解できた  | 55% | 2. まあまあ理解できた   | 38% |
| 3. どちらでもない  | 8%  | 4. あまり理解できなかった | 0%  |
| 5. 理解できなかった | 0%  |                |     |